



広島法務局尾道支局と尾道人権擁護委員協議会が実施した第41回全国中学生人権作文コンテスト尾道地区大会で、尾道市立高西中学校1年 網崎心優太さんの作文が「特選」に選ばれました。

作品を通して、人権について改めて考えてみてください。

「個性」を大切に

みなさんは、「普通」「個性」と聞くと、どんなことを思い浮かべるだろうか。辞典を引くと「普通」は「他の人や物と比べて変わっていないこと、珍しくないこと」と書かれており、「個性」は「その人やその物が持っている特別な性質」と書かれている。

私は、この「普通」や「個性」についての考え方を変えることが重要だと考える。

私が小学生の時のことだ。クラス内で集団いじめが起きており、特定の子に悪口を言ったり、無視をしたり、仲間外れにしたりすることが日常茶飯事だった。はじめは見ていただけの人も、次第にその子に対して悪口を言うようになっていった。

(なぜいじめをするのだろう。)

私は仲の良かった男の子にその理由を聞いた。すると、彼からは驚くべき言葉が返ってきた。

「普通じゃない、あいつは。体型がみんなと違って、しゃべり方も変だ。」

「普通じゃない」この言葉が私の心に引っかかった。彼の言う「普通」とは何なのか。私は分からなかった。

この出来事がきっかけで、私はいじめを意識するようになり、「普通」という言葉に疑問を持つようになった。

学年が上がった時も、いじめが起きた。標的になったのは、同じクラスの発達障害の子だった。その子は、リアクションや動作が大きく、興奮すると声が大きくなる特徴があった。じゃんけんの腕の振り方や、勝った時の喜び方などが大げさで、私も少し気になった。この時、彼の言った「普通じゃない」という本当の意味が分かった気がした。その子は私たちとは何かが違う。同じではない。そう感じた。

やがてその子への陰口が広まり、先生へと伝わり、一人ずつ先生と面談をすることになった。その時、私はこんなことを言われた。

「あなたに個性はありますか。」

その時の私には、この言葉の意味が分からなかった。「個性」とは何なのか。その問いに答えられず沈黙が続

いた。しばらくして、再び先生が口を開いた。

「あなたは運動が苦手ですね。あなたがしたことは人の個性を馬鹿にすることです。あなたが運動を苦手なのは個性。それを馬鹿にされているのと同じですよ。」

この時、私はこう考えた。

(個性ってみんなが持つてるんだ。私だったら運動が苦手だとか、内気な性格だとか。私たちが他人をどうこう言うのは、それが個性だということに気づいてないからなんだ。個性を持っているのは普通で、それを馬鹿にしたりからかったりする人たちが普通じゃないんだ。あの子は変じゃない。変なのは私たちの方だ。私たちにはない。他人の個性を批判する権利なんて。)

私はようやく答えにたどり着いた気がした。一番大切なことは、個性を尊重することで、自分の個性はもちろん、他人の個性も認め、受け入れていくことではないだろうか。

私は、中学生になった今でも時々考える。いじめをなくすために大切なことは、「普通」という固定観念をなくすることだ。私たちは、自分が普通で、自分とは違う人は普通ではないと決めつけている。しかし、人がそれぞれ考える普通は全く違う。この世の中に自分と同じ人はいない。それは、一人一人が持っている多種多様な「個性」があるからだ。普通という考え方を頭の中から消し去り、一人一人の個性を尊重する。そうすることで、みんながわかり合える社会づくりやいじめの撲滅につながるのだと私は考える。

私が好きな言葉の中に、特に印象に残っている言葉がある。

「あなたは、あなたであればいい。」

これは、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサが残した言葉だ。

もし他人に否定されたとしても、自分の個性を貫いて欲しい。そうすれば、いつか誰かがあなたを受け入れてくれるはずだ。

☎ 人権男女共同参画課 (☎0848-37-2631)

令和4年度小学生人権標語コンテスト

尾道市
最優秀賞

■ 見て見ぬふり 「関係ないし」も 重い罪 (高須小学校4年)

■ 目の前で いじめているのに 無視するの? (高須小学校6年)

■ 「大丈夫？」 みんながつなぐ 助け合い (美木原小学校6年)